

新春座談会



「強さとやさしさをあわせもつ 自立のまちづくり」

—産業の若きリーダー夢と希望を市長と語る—

語り合った人たち

笠原 新太郎さん
(岡谷商工会議所商業委員長)

山田 昌義さん
(岡谷市次世代経営者研究会)

高林 昌司さん
(NPO法人維新塾理事長)

宮本 総子さん
(クローバーデザイン)

今野 利明さん
(うなぎのまち岡谷の会青年部長)

坂井 裕子さん
(岡谷絹工房)

山岡 俊幸さん
(岡谷市機械精密工業会)

林 新一郎市長
中田 富雄 総務部長 (司会)

新しい年、平成19年(2007年)が始まりました。今年も市民のみなさんが安全で安心して健康に暮らせるまち、住んでみたい住み続けたいまちを実現できるように英知を結集して独自性のある、特色のあるまちづくりを推進してまいります。

これからは、市民のみなさんと市との協働によるまちづくりをより強力で推進していくわけですが、今回は「強さとやさしさを併せもつまち」というテーマで、各界でご活躍されている7人の方にお集まりいただき、林市長と座談会を行いました。

市長

みなさん、新年あけましておめでとうございます。大変お忙しい中、新春座談会にお集まりいただきありがとうございます。日ごろ、市政に対して常にあたたかいご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて現在、国や地方の行財政は、大変厳しい財政運営を迫られ、国は「三位一体」の改革(国庫補助金改革、地方への税源移譲、地方交付税の改革)を推進しており、岡谷市も大変厳しい影響を受けています。

さらに、今後生産年齢人口の大幅な減少も予想されることから、市税等の大幅な増収は見込めないなど、市の収入確保は今後ますます厳しくなるものと考えています。

このような状況のなかで、行財

政の運営の効率化と財政基盤の強化を図り、多様化する市民要望や各種の行政課題に的確に対応し、地域の活性化を図っていくことが求められており、着実に自立の道を歩んでいかなければならないと強く決意しているところです。

昨年度、市民総参加のもと、市民の皆さまとの協働により「岡谷市行財政改革プラン」を策定いたしました。これに基づき、本年度は市の組織機構の大改革(8部24課から4部20課へのスリム化)や、2病院の統合に向けた経営統合を実施し、来年度に向けての補助金・負担金の見直しなどに取り組んでいます。また、7月豪雨災害という大災害の復旧、復興対策や、将来にわたっての防災計画の見直しなど、行財政へ新たな負荷も加わりましたが、これも乗り越えていかななくてはなりません。



この改革プランに基づき、厳しい財政状況の中にあっても夢のある特色ある岡谷市を築き上げていくことが、私の責務だと考えております。

ぜひ、市民総参加でまちづくりを進めていくためにも、より一層のご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

本日は、新春座談会としてご活躍されている新リーダーの皆さん方にお集まりいただきましたので、新春にふさわしく明るい1年の幕開けとなるような夢のあるまちづくりについて、忌憚のないご意見を聞かせただければありがたいと思います。

これからの行政に望むものは

司会

それでは、座談会に入らせていただきます。まず、これからの行政はこうしてほしいなど、感じていらっしゃる点をお聞かせいただければと思います。

笠原さん

最近、新聞の報道では北海道の自治体が財政再建団体になったというのですが、国がきつと何とかしてくれるだろうと思っていたら、ぜんぜんそうではなくて、これは他人事ではないんだらうなど

思います。市町村合併がなくなり、岡谷が自立してやっつけていかなければいけないということで、行政に一番望むのは、暮らしている我々が、安心して住めるまちにしたいただかなければいけないと思います。安心とは財政的にも安定しているということや、まさかこんなことが起こるなんて微塵も感じていなかったこの夏の豪雨災害、子どもたちが全国で学校の登下校のときに連れ去られる事件、そういった面での安全という点。もちろん全てを行政におまかせするわけではないのですが、安心して安全で暮らせるまちというものを、ぜひ行政がリーダーシップをとってつくっていただきたいと思います。

市長

確かにおっしゃるとおり、市民が行政に対して不安感をいだくということは、非常にそのまことにとってよくないことで、しっかりと財政計画のもとにこのまちの平穩をつくるということは大変重要です。岡谷市の国からの地方交付税が平成16年から18年までの3カ年で19億円ほどの収入減額という大変な状況です。

これは全ての地方自治体に同じような事が言えまして、自治体経営も本当に気合を入れてやっつけていかないと大変なことになる、そんな厳しい状況です。岡谷市では、

市民のみなさんに不安を与えないように最大限の努力をしてみたいです。また、市民総参加のまちづくり条例をつくって、行政とコラボレートできる部分には積極的にご参加いただき計画の策定を進めています。やはり市民のみなさんと行政が一体となって、危機感を共有して対応していくことが非常に重要だと思っています。

山岡さん

市の厳しい財政というのは、民間の企業も同じだと思う。我々みたいな民間の企業も自分で仕事を開拓し、コストを切りつめ、売上を確保しなければ、会社の経営は厳しくなります。規模とかスタイルは違うけど、どこからか借りてとか、補助金をもらうなど方法はあるのですが、最後は自分たちでお金を作り出していかないと、どうにもならなくなる。自分たちの市の中で潤うような仕組みづくりができないかなと強く思います。

市長

山岡さん、どうでしたか災害での影響は。

山岡さん

私を含めて湊に住む社員が、5・6名いまして災害当日は、当然出社できないものも何名かいました。会社を休みにしなかったのですが、安否を確認して、家のほうを優先

してもらいました。しかし、仕事も止まってしまいう状況も出てきて、四苦八苦でしたが、道が不通になつていたにもかかわらず、諏訪方面から岡谷まで歩いたり、自転車が出社してくれたり、できるかぎり会社に協力してくれた社員の気持ちを強く感じました。

安全対策ではすでに着工していただいたようですが、いろいろな安全整備に目を配っていただきたいと思います。私も地元消防団でしたので、捜索復旧活動をしていましたが、災害復旧は個人でできません。自衛隊の方たち、警察の方たち、消防署の方たち、ボランティアの人たち、みんなの連携と協力が大切だと感じましたね。災害予防対策は、普段から真剣に市民一人ひとりが意識を持つておかないと、いざなつたときにどうにもならない。そういう啓発運動にも力を入れていただきたい。

市長

水害に関しては、12溪流の砂防えん堤事業を19年度中に、治山事業は二年以内に整備するほか順次整備計画が実施され、岡谷の山だけで45億円をはるかに超える事業費が投じられてハードを整えるわけですが、最終的には「自分の身は自分で守る」というしつかりした自覚と近所との平素のつながりが大切です。これがないと助け合い



やまだまさよし
山田昌義さん

こういうことを常に想定して、自分の会社のリスクマネージメントとして考えていかなければいけないと痛感させられています。

宮本さん

自然災害が多発しているのは地球

温暖化とか関係あるのかなと考えたとき、温室効果ガス排出量マイナス6%運動の実行をしていかないと大きい災害にもつながるのかなと思えました。

の心が芽生えないわけですね。最後は心と心のつながりだということだとおもいます。西山は安全な山と言われている、辰野境から諏訪境まで砂防えん堤がひとつもない。こんな山も珍しい。大人しい、優等生と言われた山が、一挙にこういうことになった。やはり異常な雨の降り方だった。

山田さん

こういう災害の発生について、地球温暖化が一つの原因であるのかなと思うんです。一生涯のうちに人が一回遭うか遭わないかと言るのが異常気象だったはずですが、ここ10年の間に千件という凄まじい数で起こっている状態との報道を見ました。地球温暖化と災害と言うことを考えると、一人ひとりの心がけが大事だと私も改めて思いました。納品に行くため利用していた国道20号が動かなくなり、納品に行けなかったこともありました。

「強さと優しさを併せもつまち」について

司会

次のテーマが「強さと優しさを併せもつまち」ということなんですが、どうでしょうか。

高林さん

子どもを持つ親として一つ提案があります。今、登下校を見守ってくれる地域のおじいちゃんおばあちゃんのネットワークができています。地区によっては協力が得られ

ない小学校もあると聞いています。私の子どもが行っている小学校は、「笑顔守り隊」というネットワークがいち早くできまして感謝しています。まだ、地域のネットワークができていないところに対して何か方策はないでしょうか。

笠原さん

寒い中でも年配の方たちが付き添ったり、歩道に立ったりして子どもたちがくると、旗を出してくれて、本当にあれは素晴らしいと思います。たいしたことだとは思いません。

高林さん

知らないおじいちゃんとも仲良くなりますしね。このおじいちゃんはどこのおじいちゃんとか。親が知らない近所の人を子どもが知ることによって、親も関わりが生まれてくるようになります。先ほどいった災害の時にもそういうお付き合いが大切になってくるのではないのでしょうか。

坂井さん

阪神淡路大震災で主人の実家が神戸で家が倒壊して、家の者が瓦



さかいゆうこ
坂井裕子さん

礫の下敷きになりましたが、掘り出して助けてくれたのは、そこで生まれ育った近所の青年たちでした。もしかしたら倒壊した家なんて見向きもされなかったかもしれないが、ご近所付き合いがあったからこそ、助けていただいたのだと思います。同じことが今度の豪雨災害でもきつとあったはずですよ。

司会

災害の時、地域力ということがものすごく大事だと強く思いました。今、お話がありました地域の中でみんなで見守りをして、あるいは育てていくことが本当に大事なことで、何よりも声をかけるといことがすごく大切なつながりになっていきます。

笠原さん

本来は地元が盛り上がりつつあるべきものだと思うのですが、そ



れができにくいところは市のほうから背中を押してあげる事ができれば。

司 会

いかに盛り上げていくかも行政の使命だと思います。

宮本さん

会社の新人に岡谷のことを知る情報源は何と聞いたら「知らない」というんです。あえて言うならば、各家庭に月1回無料配布されている雑誌くらいで、広報おかのこのと、区や隣組といった地域の温かいネットワークを知らなかったんです。市役所が転入届を受けるときに、広報誌をあげたり、区への加入や若者には勤青ホームの講座紹介などしてあげれば良いと思うんですよ。便利に住むためには情報があるとないとではぜんぜん違うと思います。

坂井さん

やっぱり若い人が生き生きさせないとまちの元気もなくなりやすいね。若い世代に子どもを育てながら働いてもらわないとまわっていかなくなる世の中ですし。

市 長

私はこの強さとやさしさというのは、まちづくりの基本的な考え方としていつてきましたが、それが今いろんなところに波及して、

子どもにやさしく犯罪に強いまちとか、それから国際競争力に強く従業員にやさしい企業とか、様々な強さとやさしさの組み合わせなっています。強さとやさしさというのは表裏一体だと思うんですね、強くなければやさしくできないというシチュエーションも必ずあります。

笠原さん

適正なものにどれくらい人や金や物をつぎ込めるかを見極めるというものを、市長さんをトップとして行政のみなさんに、適切な選択してもらわないといけないと思うんですね。そうしないと、強そうだけども実はあんまり強くないということが起こりうるのかなと思います。

市 長

いいご指摘をいただきました。



新年度の予算編成はそういった従来の固定概念をゼロにして、ゼロベースからの積み上げということで、組み立てを行っています。したがって打ち切りの補助金もでてくるかもしれませんし、逆に厳しい中でも増えてくる場所もあるかも知れません。

産業の活性化と

賑わいの創出のために

山田さん

人にやさしくという面で関連するかもしれないですが、自分が一番直面している問題が人材です。人材をいかにうまく育てていくかそれが、自立したまちづくりも含めて、人が上手く育っていかない限り企業にしても市にしても力強いものはでてこないことを痛感しています。

特に若い人が製造業から離れていつているという面があります。中小企業で成り立っている岡谷市、諏訪地域ですので、良い人材を中小企業が確保していけるような体制が欲しいと思います。

たろう 新太郎さん

わが社は、わが社の強さを活かして、まちづくりの基本的な考え方としていつてきましたが、それが今いろんなところに波及して、

工業高校でやる旋盤や溶接などの技術実習は、工場で働いている人と接することによって生徒の姿勢や目的意識がすぐ変わってくるのではないかと考えます。職場体験で何時間か働くと単位取得になるようなカリキュラムなどはどうでしょうか。

山岡さん

岡谷には岡谷工業学校もあるし、技術専門学校もあるし、テクノプラザもありますし、そういう面では市民と産業のつながりが非常に強いまちだと思っています。義務づけるのではなく選択で選べる形態がとれたら面白いかなと思います。

市 長

今、中学生の授業で、職場体験がありますね。笠原さんのお店は人気があるんじゃないですか。

笠原さん

わかりやすいのか市内外の学校から体験に来ていただいています。お店というのは何をしているかから外から良くわかりますが、工業つていうのは我々が建物の外から見てもわからないですよ。ところが実は、岡谷には、すごい会社がいっぱいあって、日本中や世界を相手にビジネスをしている人たちが大勢いるんですね。市長さんがよく「工業立市」とおっしゃ



いますが、岡谷は、日本に誇る工業集積のまちで、大勢頑張っておられる。まちの産業は、製造業も商業も農業もそれぞれ大事ですが、まちにはそれぞれ特色があるから、強弱があつて当然だと思います。しかし、市民が住んでいて楽しめるというのにはやっぱり満足して買える物ができる店やエリアがあることだだと思います。我々商業者もつと頑張つてつくらなければいけないんだなつて思います。

高林さん

まちの個性を商業つていう切り口で考えると、たとえば大型店をいっぱい呼んで来たりとか、フランチャイズの店がいっぱい岡谷にあつたとしても、それが悪いということではありませんが、それでは全然個性ではないですね。各地域に二代目三代目と根付いた商売をしている人たちがところどころある、それが線や面につながるこれが大事だと思えます。

司会

食文化ということから、どうですか。

笠原さん

岡谷は飲食店が少ないその中で、「うなぎのまち」っていうのは、岡谷の食という面で数少ない全国に発信していかなければいけないものだと思います。

今野さん

この前着ぐるみの「諏訪湖太郎」をつくつたのですが、これから出番をもっと増やしていきたいと思つています。NHK大河ドラマ「風林火山」は小坂観音院が舞台のひとつですが、地元にお土産屋さんでもきまして、オープンにはこの着ぐるみを着て観光客をお迎えしました。

市長

毎年寒の土用の丑の日、今年は1月31日だと思えますが、NHKはもとより民放各局が取材に来て全国放送してくれそうです。やっぱり冬のうなぎはおいしいですよ。

今野さん

魚はやはり夏より冬の方が脂の



のりはいいですから。調理していても手につく脂の量が違いますし。

市長

若い人たちにうなぎの良さを、ということ地で産地消の給食の環境でうなぎを出しているのは全国でもめずらしいのではないでしょう。給食のうなぎは子どもたちうなぎの良さを知ってもらう一番良いきっかけになる。

司会

話題が産業の活性化とまちの賑わいに移つてきていますが、ものづくりのまちということから絹工房はどうですか。

坂井さん

絹工房で織物をやっていますが、他と差がないものを作つてはいけない時代だからと宮坂先生御指導のもと、あし絹という素材を使い「岡谷絹」というブランドを押し出して立ち上げてきました。

市長

ひとひねりしたあし絹糸の「岡谷絹」ブランドが有名になり、岡谷絹工房でスカーフを買おうという動き

がおこつてほしいね。

はやし 新一郎 市長

宮本さん

イルフ童画館の武井武雄の刊本作品を見ると、手作りの情熱のすごさが伝わってきますよね。そこに絹とリンクするものがあり、岡谷は手作りの価値、一点ものの価値をわかつているまちなので、もっと多くの人たちが支持されるようになればと思います。

笠原さん

今、国がコンパクトシティといつて、中心をもつと活性化させようと提唱はじめていますが、岡谷はわりとお店や市役所などの施設も真中にあるし、もともとまちの真中にいろいろ集中しているまちだと思えます。まちの真中にもつと人を呼び寄せたりできる機能を考えたり、商工会議所もTMOの立ち上げをしていますし、フオローの風が吹いているので、これは岡谷にとつてはチャンスじゃないかな、つて思うんですよ。

市長

まちづくりの専門家にいわせると、コンパクトシティをつくりやすい一番いい形の市だと言つてくれています。小さな地域のまちだからできるというまちづくりを、みんなで知恵を出し合つてやっていくということだと思つています。岡谷の良さはコンパクトシティの良さだと思つて。



山岡さん

諏訪圏工業メッセはすごい反響があつて、地域の展示会としては全国有数なんです。大企業の人たちも毎年注目しています。工業メッセで話がつながって実際に受注した会社がたくさんある。企業の大小ではなく、すごい技術をもっている人がたくさんいるはずですが、PRの仕方がまだ下手だと思う。そこを行政でうまくPRしてもらおうと非常にありがたい。その点ではいままで私も行政の人とつながりはなかったんですが、テクノプラザを介して色々なつながりが持てていることはいいことだと思う。

市長

今、大変ありがたいお話を聞かせていただきました。テクノプラザが遠かった行政との距離を縮めた。



山岡さん

市民に無料で開放している部分もありますし、かなり有効的に活用できているものだと私は思いますけど。

市長

下のホールも活用していただいて、展示会などもしましたね。

岡谷のものづくりはいつとき空洞化が著しくて、元気がなかったんですが、独自の技術、加工技術で再び世界になくてはならない位置づけとなってきました。岡谷の特徴である多品種少量生産の、地域全体にある精密の特色を活かして、設計とか試作とか試験とか完成品に至る前の、*モックアップというジャンルをしっかりと確立していきたいと考えています。そしてナノテクノロジーとスマートデバイスの世界的な技術集積地にしていきたい。ナノテクノロジーの

かざあき 利明さん
いまの今野

企業群が市内にあるというところで、非常に期待しています。岡谷は素材と技術があるまちと認識されています。さらにPR力やリーダーの力を蓄えて、将来女

宮本さん

岡谷は素材と技術があるまちと認識されています。

市長

性向けの地元メイドのものをつくらせてみたいと思っています。

岡谷は、さまざまな分野の精密工業がかなりのレベルで展開している全国的にもめずらしい地域。部品を作る技術があるのでニーズと設計図があれば、製品化は可能だと思っています。ぜひ女性の目から見たいものづくりをしていただければ、思わぬものが出来上がると思います。

山岡さん

我々は完成品をお客さんに納めているんですが、完成品にいたるまではいろんな工程を踏まなければできないんです。それをこの狭い一地域でできるっていうのは、全国でもまれなところなんです。

山田さん

企業間のネットワーク化とか連携グループ化、研究グループの会とか、行政にかなり力を入れてもらっていて、そこで私も仲間作りができた、仕事の協力関係もできたりします。

中小企業都市サ

ミットがあったときテクノプラザで展示をしたんですよね、それを

見た方が図面を送ってくれまして、見積をさせていただいたということもありました。

夢と希望のある
まちを目指して

司会

最後のテーマですが、夢と希望のあるまちを目指してということですが、今後は市民のみなさんと行政がともに手を携えてともに共働りによるまちづくりを進めていかなければならないということになります。こんな岡谷になればという夢、ご自身の企業分野でのこれからの夢や抱負をお願いします。

宮本さん

若者の、目に見える参加が見た



さとこ 総子さん
みやもと 宮本

いと思いい同世代の仲間と考えたことなんです、中学校を卒業して

*モックアップとは、製品を製作する前に作成される外見がそっくりな模型などのこと。



成人式を迎えるまでばらばらになつてしまつて、地域のことを忘れてるんですよね。それを少しでも意識をつけるのに中学を卒業するときに自分たちの成人式をプランニングする機会をつくつたらどうでしょうか。市や大人はサポートする側にまわり、自分たちが責任をもつた成人式をやるという企画です。

中学を卒業するとき5年後の自分ってなんだろうと考える機会になればいいし、ハタチになったとき、市や今まで育ててくれた人やこれからの若者に、ハタチの人たちができることが何なのか示す日、おめでとうつていう日と同時に



たかばやし まさし
高林 昌司さん

市長

自分が結婚して子どもができて初めて地域ってこんなに温かかったんだとか、目に見えないところでいろんな人が支えあつて、街路にプランターで花を育ててきれいなまちにしようとか、公民館を維持しようとか、道路の掃除や雪かきをしていたり、生垣の葉っぱを切つてたりとか、みんな自分の時間を使つて少しでも快適なまちにしようとしてるのがやつと見えたんですね。たぶん今の若者もよっぽどじゃないとわかる機会すらないのでそういうことがあつたらいいなあと思います。

岡谷の成人式は、静粛で司会進行や市民憲章の唱和も新成人が行なつていますが、もつと根幹から若い人たちにつくつていただくのも面白いと思う。

笠原さん

市民アンケート

に新成人からまちにありがどうつて言える機会がくれたらと思ひます。

若者も自分たちの地域を守つていかなきゃいけないとちよつとも意識してもらつて機会がすくく大事なんじゃないかなと思います。

で、岡谷にこれからも住みたいと答えた方が、半分以上いました。それを見た時嬉しくて、多くの人がそう思つてくれるんですね。東京から仕事でくる人たちが、お世辞も多少ありますが、信州で諏訪湖があつて緑にかこまれていいと



やまおか としゆき
山岡 俊幸さん

市長

山岡さんなんか海外で散々苦勞されたもので、岡谷に帰つてくると世界で一番いいところって思わない？

山岡さん

それは本当に思います。住民へのケアが充実しているまちにしてもらえたらいいんじゃないかと。そうすれば自然に人が来ると思うんですよ。住んでいる人もでていかないだらうし、そういうところを目指してもらいたいですね。

市長

安心して生れて、安心して生涯をまっとうできるまち。先の見通しがつけられるまち。都市経営を市民に明確に示していきけるまちというのが真の安心につながつていくと思うので、やはり財政計画をきちんとした、中長期計画を明確に

宮本さん

住んでいるまちっていうのは、

その人と縁がある地域で、自らが住みやすくしていくところだと思います。街の中で頑張つている大勢の人を見てきていますし、自分も居心地がいいと思つています。

高林さん

気付いてないですよ。掘り起こしていききたいですね。こんないいお店がある、こんな仕事をする工場があるつて。

頑張らなければいけないですけど、工業は本当にレベル高いし、コミユニティーも決して薄くない。本当にいいまちですが、住んでいる我々が誇りを持つて、外にいって「いいところだよ。来てくれや。」と市民がもつと胸を張つてもいいんじゃないかな。



立てていくというのが行政の大きな仕事だと思えます。そうしたなかで、田舎暮らしの快適さと都会暮らしの利便性あるいは文化の享受を岡谷はできるわけですよ。まちづくりのアイテムがこんなにある市はない。太鼓にうなぎ、バレーボールにスケートそれから武井武雄の童画等そんな文化の薫り高いまちなのでその良さをエンジョイしていただきたい。大勢の人が朝、湖畔を散歩している景色は非常に大切な岡谷の大きな自慢だと思います。

今野さん

うなぎのまち岡谷の会も、個々では何もできないですよ。でも、そこで、川魚屋さんや飲食店やうなぎ屋が知恵を出し合ってみんなが一緒に成長して行きたいと思えますし、県内外のお客さんが喜んでくれるような岡谷のまちづくりの一端を担っていかれたらと思います。

高林さん

維新塾としての抱負を言わせていただきます。

たとえば遠くで修行して岡谷に戻ってきて二代目として引き継いだばかりの事業者とか、どこ

で仲間を見つけたらいいかわからない若手の事業者の受け口とか僕らの会がそういうネットワークづくりの受け皿になりたいと思っています。業種は違っても自分の仕事に活かせるヒントがなんだかなだ出てくるんですよ。維新塾は30数名なんですが、このネットワークを広げみんな元気になるうと思っています。

市長

テクノプラザによってもものづくりの人は行政との距離を縮めた、商業は維新塾によって行政との距離をせひ、縮めていただきたい。市民総参加の役割を維新塾が果たすということだと思っております。



《司会》
おとみお 富雄 総務部長
なかた 中田

坂井さん

岡谷絹工房では1月12日から14日にイルフラザで展示会をするのでみなさんのご支援をよろしく

司会

お願いしたいと思えます。また、1月末には、「JAPANAブランド」として、フランスでの展示会に参加して世界に向けてシルク岡谷の伝統を引き継ぐあし絹「岡谷絹」を売り込んできます。

では最後に市長の方からまちづくりにかける思いなどお話いただき、座談会を閉めさせていただきます。

市長

どんなに立派なまちづくりのポリシーを抱いても、福祉の高潔な理想を描いても、市の財政がしっかりしていないと動きがとれません。実業界のみなさんとコラボレーションして行政のお手伝いできるところはしっかりと手伝いし、行政の情報網で有益な情報を提供していく。そして健全な産業の育成を図っていくこと。これがまちづくりの基本だと思います。

工業立市、工業がしっかりしてこそ、うなぎも美味しく食べられ、消費経済も活性化するという良い循環を続けなければなりません。ナノテクノロジー、スマートデバイスの世界的な集積地を目指すという大きな目標を掲げて、テクノプラザも機能しています。

それから、絹工房では「絹のまち」という岡谷の伝統を支えにブランド商品をつくりあげていただ

き、日本に誇れる機織工房として発展させていただければと思います。

新年度は、平成18年7月豪雨災害からの復旧・復興対策を実施し、安心安全のまちづくりにかかわる施策の推進を優先してまいります。また、まちづくりの大きな課題であります病院統合計画の推進のため新病院の位置をどこにするかということもこの3月議会までにはおしめしができると思っています。

一つの公共物をどこに決めるかによってその他の物に全部影響がでる。これはまた市民総参加のまちづくりとしてみなさんの意見を十分反映させていきたいと思っております。

昨年も様々なことがあって新年を迎えたわけですが、どうか若い力で岡谷のそれぞれのお立場でまちづくりにさらにご貢献いただきたいと思っております。

今年一年がここにお集まりのみなさんにも岡谷市にとっても良い年でありますようにお祈り申し上げます。

